



百梅图——大阪のウメの花

百梅图

日本大阪梅花集萃





作者简介：

杨振一 1942年生。原国家旅游局国际市场开发司副司长、中国驻大阪旅游办事处主任。自20世纪70年代开始学习摄影，多年来以手中的相机为所从事的宣传服务工作。在日本工作期间，曾多次举办中国旅游摄影展，作品在多种出版物及旅游宣传展览会上发表。

作者プロフィール：

1942年生れ。もと国家観光局国際市場開発司副司长、大阪駐在中国観光事務所主任。1970年代から写真の勉強をはじめ、長年にわたってカメラを手離すことなく、観光事業に取り組んできた。日本滞在中には、かつて何回も中国観光写真展を催し、作品はさまざまな出版物に収録され、観光展にも出品された。



百梅图

日本大阪梅花集萃



百梅图——大阪のウメの花

摄影：杨振一 撰文：吕大千

中国旅游出版社

日文翻译: 李 雪

编 辑: 郭海燕

装帧设计: 吕大千 王 源

责任印刷: 冯冬青

图书在版编目(CIP)数据

百梅图: 日本大阪梅花集萃 / 杨振一摄; 吕大千撰.

北京: 中国旅游出版社, 2006.6

ISBN 7-5032-2933-0

I. 百... II. ①杨...②吕... III. 梅—简介—日本
IV. S685.17

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2006) 第 073755 号

书 名: 百梅图——日本大阪梅花集萃

摄 影: 杨振一

撰 文: 吕大千

出版发行: 中国旅游出版社

(北京市建国门内大街甲 9 号 邮编: 100005)

<http://www.cttp.net.cn>

E-mail: cttp@cmta.gov.cn

发行部电话: 010-85166507 85166517

制 版: 北京市中文天地文化艺术有限公司

经 销: 全国各地新华书店

印 刷: 北京顺诚彩色印刷有限公司

版 次: 2006 年 7 月第 1 版 2006 年 7 月第 1 次印刷

开 本: 889 毫米 × 1194 毫米 1/24

印 张: 4

印 数: 1-3000 册

字 数: 40 千

定 价: 42.00 元

I S B N: 7-5032-2933-0/K · 1071

版权所有 翻印必究

如发现质量问题, 请直接与发行部联系调换

目 录



前 言	4
一、梅花——花中君子	8
二、梅花的形态特征	14
三、梅花的观赏	30
四、梅花在世界分布	62
五、拍摄梅花三要素	82

目 次

まえがき	5
一、ウメの花——花の中の君子	9
二、ウメの花の形	14
三、ウメの花の観賞	33
四、世界での分布	62
五、ウメの花撮影の3つの要素	84

东瀛梅影

我于1997年至2003年在大阪工作生活了6年。大阪给我留下的印象十分美好，而最令我魂牵梦萦，至今仍念念不忘的还是大阪城公园的那片梅林。大阪是日本第二大城市，最重要的古迹就是大阪城，城中的天守阁是大阪市的象征。沿护城河的周围有大片的园林绿地，这就是大阪城公园。这里是大阪旅游的首选之地，也是市民们休闲锻炼的好去处。园中种植最多的是日本国花——樱花，其次便是占地1.7公顷的梅林。这片梅林源于1974年大阪府立北野高中的毕业生为纪念建校百年而捐赠的22个品种880棵观赏梅树，历经30年的精心栽培，至今已发展到97个品种1200多棵树了，成为日本著名的赏梅之地。

第一次去梅林纯属偶然。时值周末，难得碰上二月雪，闲来散步，被一阵幽香吸引，转过大阪城角，突然在漫天雪花中看到了一片梅林，红色的花朵正迎风冒雪傲然绽放。我欣喜若狂，兴奋异常，如他乡遇故知，如少年偶遇初恋的姑娘。我在学生时代曾习作国画，欢喜写梅，临摹过名家的梅花，也吟诵了不少古今咏梅的诗词。梅的傲雪使骨、高洁品格，令我肃然起敬，心向往之。可是说来遗憾，这样爱梅的我，由于生活在北国，年过半百竟从未亲眼目睹过梅花。而此时，居然在异国的土地上看到了平生渴望一见的雪中梅林，不禁大喜过望。但至今仍令我痛悔不已的是，当时没带相机，而其后5年再没有机会看到红花白雪相映的景色，那瞬间的美丽只能遗憾地留在我的记忆之中了。

中国有近7000年食用和栽培梅的历史，梅文化底蕴深厚，使我一直以为梅乃中国独有，在日本见到这么一大片品种繁多的梅林，起初不免惊奇。深入了解之后才知道，是日本派遣到隋朝、唐朝的使节把梅从中国带到日本的，从食用梅到观赏梅，迄今已有上千年的栽培历史。在食用方面，日本的居酒屋都卖梅酒，渍梅果也是人们日常餐桌上不可或缺的小菜。观赏梅的栽培亦很普遍。仅在大阪，除这片梅林之外还可在高津公园、西九条公园和长居植物园等处赏梅，居民的庭院之中也不乏栽培。日本人喜爱梅花，认为梅在花中代表忠诚和恬静。他们赞扬梅花不畏严寒，开在百花之先，香气清高。梅的品格特别符合崇尚高雅的日本审美情趣，因而赏梅被视为典型的日本风情。在大阪，每当梅花花期一到，网络、电视和地铁站口都日日公布最新“梅花情报”，详细报告各处的梅花是含苞还是三分开、五分开或已满开。人们闻讯便成群结队来到梅林，或作画写生，

或花下吟诗，或盛装漫步，或奏乐歌舞，或聚会饮宴，更有一群带着“长枪短炮”的摄影爱好者在那里拍花、拍鸟。做事认真的日本人给每棵树都挂上一块写有树名的铜牌，而观赏者也认真地大声念着那些名字，于是你便可以听到“唐梅”、“杨贵妃”、“西王母”、“江南”、“绿萼”、“古今集”等带有原产地中国印迹的名称。当然，从“江南所无”这样的名字中也可以感受到日本人将引种的梅花发展出新品种之后的自豪。

我既爱梅花，又多年从事摄影，自然而然地就加入了“长枪队”，决心用相机永远保存住梅花的丽影。在大阪的6年期间，从每年1月金黄的蜡梅（从种类上说，蜡梅不属梅类，因相似之处不少，唐以前混同为一类）飘香，到3月晚开的淋子梅和丰后梅红白相映，在长达3个多月的花期里，差不多所有休息日我都从早到晚泡在大阪及其周边的梅林里，忘却饥寒劳累，用手中的相机忘情地拍摄梅花。这份痴迷传染了夫人和女儿，她们也拿起相机，从拍摄梅花开始变成了摄影发烧友。说实在的，若非亲眼目睹，我真不知道梅花会是这样的丰富多彩。梅树干姿百态，直枝形的或横出斜逸，或箭指蓝天，似孔雀开屏；垂枝形的如瀑如幔，如涌泉喷溅；游龙形的老木苍劲，枝干虬曲，似龙舞云天。梅花种类繁多，花形有单瓣和重瓣，花色有粉红、大红、紫红、浅粉、艳粉、纯白、浅黄、淡青等。花香清幽淡雅，古人称之为“着意寻香不肯香，香在无寻处”。梅花一开，吸引来成群的小鸟，在校头雀跃鸣春，也常常闯入我们的镜头。美丽的梅林总是让我们看不够，拍不够，流连忘返。拍摄胶片起初用负片，后来改用反转片。器材则由佳能EOS5、尼康F100发展到中画幅的勃朗尼卡6×7、宾得6×4.5N。

几年来拍摄积累的大量照片本来只为自己欣赏，没想到周围朋友们看后也感到大开眼界，十分喜爱，便想何不出版为书，既可供爱梅的朋友们欣赏，亦可给画梅的朋友们做个参考，在赴日旅游如此便捷的今天，阅后感兴趣的朋友也不妨亲赴大阪观赏。这个想法得到了中国旅游出版社的鼓励和支持，得以付梓，在此谨表深深的谢意。

まえがき

私は1997年から2003年まで、日本の大阪で6年間仕事をし、生活していた。大阪は、私に素晴らしい印象を残してくれました。今でもはっきりと覚えているのは、大阪城にあるウメ林です。日本2番目の大都市ともいわれる大阪のもっとも重要な古跡は、大阪城です。大阪城内の天守閣は、大阪市のシンボルです。お濠りの辺りには、かなりの面積の芝生があり、これは大阪城公園です。ここは大阪の観光スポットで、市民にとって絶好の憩いの場所です。園内でもっとも多く栽培されているのは、日本の国花といわれるサクラで、その次ぎは、1.7ヘクタールもあるウメ林です。1974年に大阪府立北野高校の卒業生が学校設立百年を祝うために寄付した22種類880株のウメの木は、今ではすでに97種、1200株に増やし、日本における名高いウメの観賞地となっています。

初めのウメ林に出会ったのは、まったく偶然のことでした。2月の雪の降る週末のことで、暇つぶしに町を散策していたところ、ふと香ぐわしい匂いに引きつけられ、大阪城の城壁の角を曲がって足を進めると、ふと一面の銀世界に広がるウメ林、ピンクの花が雪に中咲き誇っているのが視野に入ってきました。私は、異郷で旧知に会う、初恋の少女に偶然に出会った少年のようにたいへん喜しく感じました。学生時代の私は、かつて中国画を勉強したことがあり、とくにウメのスケッチが好きで、中国画の大家のウメの画を模写したり、数多くのウメを吟じた詩歌を暗誦したことがあります。雪に凌ぐように咲くウメの力強さ、清潔な品格に魅せられました。しかし、残念なことに、ウメが大好きな私は、北国生まれ北国で生活していたため、天命を知るといわれる齢を過ぎても、ウメの花を目にすることはありませんでした。まさにこの時、異国の土地で雪の中で憧れのウメ林にめぐりなんて、嬉びの気持ちを抑えませんでした。しかし、今でも残念に思うのは、当時カメラを持っていなかったことです。その後、5年間も紅白の交じった雪の中のウメを目にすることはなく、その瞬間のハットさせられるような美しさは、残念ながら私の記憶の中に残るだけのものとなりました。

中国には7000年近くのウメ栽培の歴史があり、ウメ文化の背景があるから、ウメ文化が中国だけ存在するものと思い込んでいました。日本でこんなに種類が多い、これほど面積の広いウメ林を目にしたとだんに実に驚きました。その後いろいろと勉強して、日本が隋・唐の時代に使節を派遣して、中国のウメを日本国にもたらしたことを知りました。日本では、食用、観賞用のウメはすでに、千年の歴史があるといわれています。食用では、日本の居酒屋ではウメ酒を味わうことができ、ウメボシも食卓に欠かせないものとなっています。観賞用のウメも広い範囲で栽培されています。大阪では、地元のほか高津公園、西九条公園と長居植物園、そして市民の自宅の庭にもウメが栽培されています。日本人はウメが好きで、ウメの花を忠実、静謐のシンボルとしています。寒さを恐れることなく、どの花よりも先に香ばしいにおいのある花を咲かせることをたたえています。ウメの品格は、とくに雅やかさを尊ぶ日本人の美意識にぴったりで、典型的な日本の風物と見なされています。大阪では、ウメの花が咲く頃になると、ネットやテレビと地下鉄の入口では、毎日、各地でウメが3割咲きや5割咲き、満開などの最新

「ウメ前線情報」を公表しています。その情報を目にした人たちは、三人五人と群をなしてウメ林で、スケッチをしたり、詩を吟じたり、散策したり、音楽の伴奏に合わせて歌をうたい、踊りをおどったりして、酒を酌み交わします。さらに、長いレンズのついたカメラを持ったアマチュアのカメラマンがそこで花や小鳥を撮影しているのです。真面目な日本人は、一つ一つのウメの木に銅製のプレートを付けており、観光客たちもそのプレートの一つ一つ声を出して読んでいるのです。こうして、「唐梅」「楊貴妃」「西王母」「江南」「緑萼」など中国風の名称も耳に入ってくるのです。もちろん、「江南所無」「古今集」などの名前から日本人が渡来種であったウメの花を新しい種に育て上げた気持をうかがい知ることのできるのです。

私はウメの花が好きなのに、撮影の仕事にも長年携わってきたため、自然にカメラマンたちに仲間入りし、カメラで美しいウメの花を撮ることにしました。大阪での6年間、金色鯉梅(ロウバイ、ナンキンウメ。種類から言うと、ウメに属さないが、唐代以前にはウメと混同されていた)が咲き始める1月から、淋子梅と豊后梅が紅白を交えて咲く3月末までのほぼ3ヵ月間の休日の日に、私は朝から晩まで大阪および周辺のウメ林に浸りきって、寒さも飢えも顧みずカメラを持ってウメの撮影に無我夢中になっていたのです。その執着ぶりに妻と娘を感動し、彼女たちもカメラでウメの写真の撮り始め、次第にウメ撮影のファンとなりました。自分の目で見たことがなければ、ウメの花がそんなにカラフルなものであることは知りませんでした。ウメの木は、それこそ千姿百態で、クジャクが尾羽を扇子状に広げる、矢の如き空に向かって枝を伸ばすタイプ、滝のように枝を下に垂れ下げるタイプ、空を泳ぎまわる竜の形をしたタイプなどがある。ウメの花は数多くの種類があり、花の形は、一重と八重びらのものがあり、色は、ピンク、真紅、紫色、浅いピンク、鮮やかなピンク、純白、浅い黄色、ライトブルーなどがある。微かな香が漂うウメの花は、古人に「着意に香をさがせとも香りない、さがさない所に香あり」とたたえられてきた。ウメの花が咲くと、数多くの小鳥を引き寄せることになりました。よくウメの枝の間で春の訪れを知らせるように囀っているところを、わたしたちのレンズがとらえたのです。美しいウメの花をいつまで見ていても飽きることがなく、しばしば撮影に夢中になって家に帰ることさえ忘れてしまうことも多いのです。始めは、ネガを使っていましたが、後にボジに変わりました。機材も、キャノンEOS5、ニッコンF100から、ミドルサイズのBronica6×7、Pentax6×4.5Nにグレードアップしました。

ここ数年、撮影してきた著しい枚数の写真は、もともと自分のコレクションにするためでした。しかし、それを見ていた友人は、視野を広げてくれるものだと大好きになったと言うのです。それで、写真集を出せば、ウメが好きな友だちに観賞してもらい、画家の友人だちにモチーフにしてもらうこともできるのではと思うようになりました。日本への観光が便利になった今日、この写真集を見て興味があれば、大阪への観光にも出かけるかも知れません。このアイディアは、中国観光出版社の励ましと協力を得て、上梓することができ、ここで心を込めて感謝の意を申しあげたいと思います。







一、梅花——花中君子

梅花在我国栽培历史悠久，与人们的文化生活结下了不解之缘。远古时代，先民采集野生梅子，主要是作加工食品之用。但因梅花冰中孕蕾、雪里开花，“独天下之春”的品质，又使人们在以果为主要目的的过程中，也逐渐一并欣赏了它的神、姿、色、态、香之美，于是有人对其栽培、繁殖，培育出很多专供观赏的梅花新品种，所以“花梅”应是从“果梅”中分出来的一枝奇葩，时期约始自我国西汉初叶。

随着梅花栽培渐盛，品种也有所增益，这就引起了文人雅士的关注，以梅花为主题的诗画、韵事，也逐渐兴盛起来。话说在我国晋代，有一位丞相名叫陆凯，他在春回大地、早梅初

开之际，自荆州摘下一枝梅花，托邮驿专赠远在长安的好友范晔：“折梅逢驿使，寄与陇头人。江南无所有，聊赠一枝春。”“春”可以“寄赠”，自陆凯始。从此，梅花传友情，传为佳话。唐代宋璟，见梅花怒放，有感而发遂作《梅花赋》，有“相彼百花，谁敢争先。莺语方涩，蜂房未喧。独步早春，自全天下”和“谅不移于本性，方可侔于君子之节”等赞语，对梅花品格的推崇，起了很大的促进作用。历朝历代，梅诗、梅文固多佳作，梅画、梅书亦脱颖而出。一时间，梅花缤纷，梅影阵阵。同时，梅花又不断涌现出新的系、类、型的栽培品种，在历史上逐渐形成了艺梅的高潮。

一、ウメ——花の中の君子

中国のウメの栽培には、長い歴史があり、人々の文化生活とは切っても切れない関係がある。大昔の頃、わたしたちの先祖は野生のウメの実を食品として加工するため摘み取っていた。しかし、ウメの花が寒い頃につぼみがふくらみ、雪が降る頃に花が咲き、「この世の春を独占する」性格があることから、人々はウメの実を摘み取る中で、次第にその雰囲気、姿、色、形、香りの美に気づくことになっていた。こうして、心ある人たちは、それを栽培し、繁殖させ、数多くの観賞用の新しい種をつくり出した。「花梅」とは、前漢初期に「果実梅」から育てられた珍しい一種である。

ウメ栽培が盛んになるにつれて、品種も増えてきた。そういうことで、文士たちに注目されることになった。ウメの花をモチーフにする詩歌、楽曲も次第に増えていた。晋代に、陸凱という宰相は、春が訪れ、初梅の花が咲く時、荊州から1本のウメを採取し、

駅伝によって遥かに長安に居る親友範曄に送り届けた。「ウメを折りて駅使に頼み、隴頭（古代の北西地区）の人に寄せる。江南に所有なし、ひとまず一枝の春を贈る」。「春を贈る」ことは、陸凱から始まったのだ。こうして、ウメの花で友情を伝えることは、美談として伝えられてきた。当代の宋璟は、咲き誇るウメの花を見て、感銘して「百花より、誰が敢えて先を争おうとするか、鶯の囀りが洩り、蜂の巣にまだ騒ぎがず、早春を独歩して、自ら天下を全す」、「本性より移さんと知り、まさに君子の節を映す」との『梅花賦』を吟じて、ウメの花をこの上なくたたえ、ウメの品格の高揚に多大な役割を果たした。歴代にも、ウメを詠んだ詩歌や美しい文章や書画の佳作がたくさん生まれた。一時期に、ウメやウメの花が文壇で流行した。同時に、ウメの新しい品種が次々と栽培されて、やがて、史上ウメ栽培の全盛期が現れた。











二、梅花的形态特征

梅花为落叶小乔木，株高约10米，常具枝刺，树冠呈不规则圆头形。干呈褐紫色，多纵驳纹。小枝呈绿色。叶片广卵形至卵形，边缘具细锯齿。花多每节1~2朵，多无梗或具短梗，原种呈淡粉红或白色，栽培品种则有紫、红、彩斑、淡黄等花色，花径2~3厘米，有芳香，于早春先叶而开。花瓣5枚，常近圆形；萼片5枚，多呈绛紫色。也有不少重瓣品种。梅花可分为系、类、型。如真梅系、杏梅系、樱李梅系等。系下分类，类下分型。

二、ウメの形の特徴

落葉小喬木に属するウメは、高さ約10メートル、普通枝にはトゲがあり、樹冠が整っていない円形を呈している。褐紫色を呈する樹幹には、細かいタテのしわがある。小枝は、緑色、緑がのこぎりの歯の形をする葉は、卵形と卵形に近い円形を呈する。節ごとにほとんど短い茎あるいは茎のない花1、2本が咲く。原種のウメの花は、浅いピンクか白い色を呈するが、栽培した品種は、紫、紅、斑点、浅い黄色などを呈している。早春に葉より先に咲く花は、直径が2~3センチで、香りがある。5枚の花びらは、ほぼ円形で、エビ茶色の5枚の萼が付いている。ウメには、系、類、型があり、真梅系、杏梅系、サクランボ・スモモ・梅系などがそれである。

